
道・大切なもの

疾風S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

道・大切なもの

【Nコード】

N8323U

【作者名】

疾風S

【あらすじ】

短編です。思いついたことを書いてだけ。

私は私の道に行く。

あなたはあなたの道に行く。

私には大切なものがある。

あなたにはありますか？

夢…遠い遠い日の約束

「私、アイドルになりたいんだ」

彼女はそう言った。

「私はみんなの笑顔が見たい。それが私の夢」

僕と彼女はいわゆる幼馴染だ。お互いの両親の仲が良かったのと、家が近かったのも相まってずっと一緒だった。

公園で遊ぶ時も、幼稚園で遊ぶ時も、小学校に登校する時も、中学校から下校するときも。

今、僕たちは中学3年生、進路を決める時だ。

今まで、ずっと一緒だった。

だれどこれからずつと一緒だとは限らない。だとしても、

俺の大切なものはただ一つ、お前だ。

お前がいれば他はいらない。

俺の道はお前の横だ。

だからずつと一緒になんていさせてくれ。どんなに時間が経っても、生まれ変わっても

「だったら、僕はマネージャーになろう。いつまでも君といられるように。それが僕の大切なもの」

彼女の職業は

時に彼女は女王だった。その時俺は騎士だった。

時に彼女は医者だった。その時俺は助手だった。

彼女を守るために

俺は片目を失った。飛んできた矢から彼女を守るために

俺は姿を失った。呪いから彼女を守るために

俺は体を失った。幽霊になっても彼女を守るために

彼女はすべての人を笑顔にできはしなかった。

女王は自らの民に尽くし、そのために何人も敵を殺す命令をした。

医者は患者に尽くし、何人も命は守れなかった。

それでも彼女は多くの笑顔を作りだした。俺は彼女を支え続けた。

いつまでも私のそばにいてください。私の大切な人よ

喜んで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8323u/>

道・大切なもの

2011年10月9日01時06分発行